サンキュー！アメリカ

＝九文高修学旅行の記録＝

○○○1

心弾ませ〃家族〃と対面

佐世保市矢岳町、九州文化学園高校（鶴田伊三男校長）の一年生二百八人がこのほど、米カリフォルニア州テメキュラ市で一般家庭百三世帯に滞在しながら米国の生活、文化を肌で体験、先進施設を視察する一週間の修学旅行に出た。これだけの人数が海外でホームステイする修学旅行は国内でも初めて。短期間だが米国家庭に飛び込んだ彼女たちはそれぞれに何かを見つけ、心に残る修学旅行となったようだ。以下、旅のリポート。（佐世保支社・松尾えり子）

期　待

「Welcome」。待望のホストファミリーと対面し、期待に胸膨らませる生徒たち＝7日夕、米カリフォルニア州テメキュラ・バリー高校＝

今月七日夕、先発の生徒約八十人（普通科）が九文高の姉妹校、テメキュラ・バリー高校に到着した。佐世保を出発してから既に二十四時間以上。大はしゃぎだった彼女たちの顔にもやや疲れの色が見える。

ホストファミリー宅には二人ずつ滞在することになっていた。出発間もなく松尾沙恵子さん、伊東一美さんは「本当にステイできるか不安だけど、今はファミリーにめちゃ会いたい」と心を弾ませていた。十三歳と九歳の男の子がいる家庭。うちわやお面、折り紙も持ってきた。対面はもうすぐ。疲れてなんていられない。

米政府の決まりに従って「到着後のオリエンテーション」が行われ、現地コーディネーターの一人、ミシェル・バレンドさん(31)が生活の心構えを説明。「相手を尊重したうえで、よく考え、何でも正直に話してください。自分の家族同様、親切に接してください」。同州では二十一歳未満の飲酒、喫煙が厳しく禁止されることにも触れた。

この間、手作りのプラカードや歓迎の花、風船を持ったファミリーが続々会場入りし家族が見つかった生徒たちは、早速握手を交わし自己紹介。「はじめまして」「お会いできてうれしいです」。米国体験の始まりだ。

九文高の英語科教諭、西江真由美さんは「今回初めて英語を言葉として感じてくれるのではないでしょうか」。彼女たち同様、周囲の期待も膨らんでいた。

サンキュー！アメリカ

＝九文高修学旅行の記録＝

○○○2

「体張って」意思疎通

ホームステイ

一年生約二百人が滞在したテメキュラ市は、ロサンゼルスから南東方向に車で約二時間。新興住宅地が広がる人口四万五千人の街だ。ワインの産地としても有名で真っ青な空と豊かな緑が印象的。

生徒のほとんどは初めての米国旅行だったが、二日目からは友達同士でも「サンキュー」と英語を使うなど変化が出てきた。受け入れのファミリーは米国の女子高生に人気のマニキュアを塗ってくれたり、プールパーティーやピザ屋に連れて行ったりと趣向を凝らす。彼女たちも紙風船や竹とんぼ、折り紙などで子供と打ち解けていった。

十一歳から五歳まで子供三人がいるビショップさんの家庭には西山麻美さん、吉田彩子さんが滞在。子供たちが好きなのはプロレスごっこやおんぶで、二人とも「体張ってます。会話はジェスチャーや単語です」と苦笑。子供たちは、はしの使い方を嬉々として習った。

「とてもオープンな女の子たちね」とホストマザーのテレサさん(34)。「子供たちが二人を離したがらないから申し訳ないぐらい。意思疎通は毎日よくなっていますよ」

伝瑞穂さん、平松愛子さん、湯浅愛さんの三人が滞在したブライトさん宅。食事時は英会話の練習のチャンス。伝さんたちは「この野菜は何ですか」とファーザーのロバートさん(30)に質問、熱心なやりとりが続いた。妻リンダさん(33)は「彼女たちはいろんなことに興味を示す。一つの質問に三十分かかることもあったけど、それも楽しい。辞書は必需品ね」と笑った。

楽しいホストファミリーとの食事。後片付けもてきぱき手伝った
＝11日夜、米テメキュラ市＝

両校生徒が握手を交わし仲良く交流した歓迎式
＝9日、テメキュラ・バリー高校＝

互いに長所を学び合う

サンキュー！アメリカ

＝九文高修学旅行の記録＝

○○○4

学校体験

「外国に姉妹校を持つ意義は両校生徒がお互いから学べることです」（ノボトニー・テメキュラバリー学校地区教育庁代表）。米テメキュラ市のテメキュラ・バリー高校（TVHS）は約二千九百五十人が通う公立高校。九文高は一九九一年六月に同校と姉妹校の関係を結び、これまで短期留学、語学研修などを通して交流を深めてきた。

九六年秋にも二十一人が三週間の語学研修に訪れているが、二百人の訪問は初めて。盛大に行われた歓迎式では両校生徒入り交じって自己紹介や写真撮影。楽しいひとときを過ごした。

普通科の生徒約八十人はTVHSの授業を受ける機会に恵まれ、二人一組になってクラスに飛び入りした。ここでは一年生のときから選択科目を多く取り入れ、基本的な科目以外にも写真、園芸、設計、バンド、マーケティング、スポーツメディスン、英語以外を母国語とする生徒のための英語（ESL）などバラエティーに富む。生徒が教室間を移動し、服装はへそ出しや危険と見なされるもの以外は自由という。

国語の授業を受けた志水奈美子さん、福崎陽子さんは「みんな授業を楽しんでいるし熱心でまじめ。質問も多く、同じ年ごろには見えない」と驚く。山川真澄さん、奥村美早さんも「個人の責任で勉強している感じ」と感心。しかし「自由すぎて落ち着かなかった」という感想もあった。

前々日、TVHSのディック・グロック校長が「九文の生徒にはこの国の多様性を見てほしい。TVHSの生徒は制服を着た九文生から統一や調和を学んだと思う」と語っていた。互いに刺激を受け、自分たちのよい点にも気付く。姉妹校を持つ意義が実践されていた。